

全旅連青年部全国大会特集

若い力で業界活性化、課題解決を

全国大会記念対談



全旅連青年部部長 桑田雅之氏

民泊がフランスのホテル業界にどんな影響を与えているかを詳しく知りたい、業界の人に連絡をとりたいと思っていたところ、長野県の青年部長の齊藤忠政君が「L・エシヤトー」というホテルグループの日本・韓国代表になっており、ちょうどパリでその会議に出ているというところから、連絡をしたところ、「じゃあ、ちょっと探してみる」ということになった。そして向こうの協会の人を見つけて、すぐに親会(全旅連)の北原会長名で、英語で手紙を書いて送ったところ、「われわれも苦しんでいるので、それを伝えに行きたい」と即答をいただいた。

——当日はかなりの報道陣も来て、話題になった。

民泊がフランスのホテル業界にどんな影響を与えているかを詳しく知りたい、業界の人に連絡をとりたいと思っていたところ、長野県の青年部長の齊藤忠政君が「L・エシヤトー」というホテルグループの日本・韓国代表になっており、ちょうどパリでその会議に出ているというところから、連絡をしたところ、「じゃあ、ちょっと探してみる」ということになった。そして向こうの協会の人を見つけて、すぐに親会(全旅連)の北原会長名で、英語で手紙を書いて送ったところ、「われわれも苦しんでいるので、それを伝えに行きたい」と即答をいただいた。

——当日はかなりの報道陣も来て、話題になった。

「民泊問題」部員が思い一つに

桑田 1年半の間、自分やりたいと思っていたことがある程度はできた部分と、あまりできなかった部分、両方がある。

ただ、次の部長を決めることが一つの重要なことだと思っていたので、それがしっかりとできたのはよかった。

熊本の地震であったり、民泊であったりと、この1年半で非常に大きな問題が起きた。特に民泊の問題については、まだ道半ばで、ゴールが見えない。

民泊問題について最初は「そんなに大したことはないだろう」という感覚だった。たまたま関わっていきつられて、われわれ業界の存続に関わる問題なのだど理解が変わってきた。しかし、民泊問題に関する組合員の問題にまだ温度差がある。これを縮めることが非常に難しい。

——今年3月にフランスのホテル業界のトップを日本に招き、フランスの民泊の現状を話してもらった。青年部主導で行われたそうだが、どんな感じでしたか。

桑田 民泊を仲介するエアビーアンドビーは海外から日本に入ってきたことで、ほかの国の状況はどうなんだろうと思った時に、調べていることが分かった。フランスのバリで起きた昨年11月のテロ事件も犯人が民泊に泊まっていたらしい。

桑田 さまざまなメディアで記事に扱われ、いまだに継続的に扱われているところを見ると、やった価値はあったと感じている。

——民泊問題はこれから山場だ。桑田 私が感じている危機感を、全国各地の組合員に伝えていこうが、まず必要だと思う。

西村 私の地元は兵庫県の知事は規制緩和について何でもOKだ、というマインドではない。ただ、日本全体を見渡すと、必ずしもそうではない。

今回の民泊問題は、都会の問題だ

桑田 学観連(日本学生観光連盟)と共催のインターシップ事業が今年も行われた。今回も8回目を迎えたそうだが、成果はほほほ。

桑田 過去数人、旅館に就職した学生がいる。事業は少しずつでも進化していると思う。

学観連は関東の観光系の学生たちで構成されているが、今回は関西の学生も参加した。今後さらにネットワークが広がり、全国のモブエーションの高い人材が事業に参加してくれると思う。

今回は兵庫県の城崎温泉で行ったのだが、市(豊岡市)にも予算を出していただいた。旅館で働く人が増えれば自ずと定住人口が増えることになるので、市にとってもメリットがあるわけだ。

気になるのは、今の若い人たちがほとんど旅館に泊まっていないということ。今回も引人の参加者のうち旅館に泊まったことがあるのがうらうらだった。一割にも満たない。それが現実だ。



全旅連青年部次期部長 西村総一郎氏

持続可能な旅館業界目指す

若い人たちが観光に行くという時に、旅館に泊まるという選択肢がほとんどない。この事業を通して、まずは旅館のことをよく知ってもらい、将来の就職先とともに、宿泊の選択肢としても旅館を加えてもらいたい。

——今回は西村さんの地元の城崎温泉で行われた。

西村 うちも含めて14軒の旅館で受け入れた。旅館によってやることは多少違ったが、オリエンテーションと、そのあとの2日半の実習で

続き、六つの班に分かれて実習で学んだことの発表と、まちづくりについての提言を行ってもらった。丸一日考える時間を設けたのだが、ほとんど夜中まで熱心に取り組んでいた。

今の学生はプレゼンテーションに慣れているし、学生らしいユニークな提言もあった。面白かったのは、

城崎は9月は割と暇な時期なのだが、どうやってお客さまに来てもらうかというアイデア。9月に動くのは誰かと考えた時に、また夏休み中の大学生を想定した。これを学生の旅行の動機は何かとすると、「1つはテーマパークに行くこと。今テーマパークではやっているのがUSJ(ユニバーサル・スタジオ・ジャパン)のホラー・ナイト。そこで、和風のホラー・ナイトを城崎でやるか」という提言があった。

——そして話がここで終わらず、地元で城崎国際リゾートセンターという

舞台があるのだが、そこに相談をするところやうろつと話を乗っ取られた。このようにない事例をたくさん作って、観光を学ぶ学生と、地方で事業をするわれわれのパイプを太くしたい。

桑田 今回、豊岡の市長と副市長も来て、学生の1人に副市長が「市の採用試験を受けに来い」と誘っていた(笑)。それほどいい人材がいた。

西村 地方にとって人口減少がすごく大きな問題になっている。豊岡市は人口が8万4千人ぐらいだが、

い合える場所を作ったというのは、意義のあることだと思う。さらに継続する必要がある。

もう一つは、全旅連の公式ホームページ「宿ネット」の改修。今回、エス・ワイ・エスという会社と組んで、組合員の旅館・ホテルが、自社ホームページ用の客室を宿ネットに置くという仕組みを作った。これからは、宿ネットに置いた客室在庫を販売してくれる先を探す。販売チャネルが見つかれば、自社ホームページからの予約が大きく増えることが期待される。

西村 全旅連青年部への出向は2001年、2009年の岡本部長の体制の時以来それから10年以上の間が空いてしまったのだが、今回は政策担当の副部長をさせてもらった。

民泊や耐震の問題に対応しているが、一番課題だと思ったのは、本部と地方に広がる情報の伝達がスムーズに行われないこと。統一して何か行動を起こそうという時、その意義や思いがうまく伝わらず、全国的な運動につながりにくいこと。そのためにも全国に広がる組織として持っている潜在力を十分に発揮できないのではないかと、このところを感じている。これは政治力においても同様で、もっと大きな力を持つことができないと思う。

さらに観光がますます目の目を見たいという国が観光立国に向けて動いている中で、行政と民間をうまく連携させて、われわれの業界をさらに発展させられるのではないかと考えた。ただ、われわれがその国を引っ張っていく産業なのだから、自負は持っているが、ひるがえって見ると、全てがヒビカかという現実はある。でも、さままさまな問題を抱えている。

私は5年前に家業の経営を受け継いで社長に就任した。その時、次の世代に経営のバトンを渡す時に、私が受け継いだ時よりも少しもよい状態を渡すことが、私にとっての使命だと思った。(4面に続く)

が、毎年700人ずつづつ減って減っている。対策がマスト。そして、人を引き付ける一つの題材が観光なのだ。当然、行政も力を入れるわけだ。

——このほか特筆すべき事業を挙げると。

桑田 流通対策委員会が担当した、OTA(オンライン・トラベル・エージェント)との協議会の設置。今までは手数料が上がるなど何かが問題が起きるたびに、起きてから反応する形だった。それを、定期的に会合を開く形にした。

日ごろお互いが考えていることを話す、話のキャッチボールができる場所がなかった。今回、その場所を作った。お互いが言いたいことを言

販売する側から見ても1万5千軒という組合員の数は魅力だと思っ。現時点ではまだ、魅力を感じないホームページだが、あと数年たてば改修した意味が分かっていただけると思う。

——部長の任期はあと半年。これからも全国大会、旅館甲子園と大きな事業が続く。

桑田 確かに大きな事業だが、イベントだけが重要ではない。委員会活動も重要だと思っている。全国大会は現時点での集大成、途中経過発表のようなもので、委員会活動についても最後までしっかりと行ってきたい。

——西村次期部長に立候補の動機

MISAWA

お客様に選ばれる宿空間へ
ミサワホームのデザインリフォーム

お客様の記憶に残る宿へリフォームのご提案をいたします。
海外のお客様のニーズを考慮した実績も多数ございます。
下記連絡先までお問い合わせください。

望湖楼様
若松本店様
大歩危峡まんなか様

2年間の軌跡



桑田氏が次期部長立候補に当たりプレゼンした内容。キャッチフレーズ「One for All」の文字が

平成26年度全旅連青年部臨時総会
～維新伝心～ 青年部の共創力で未来を拓く



26年度臨時総会で桑田次期部長を承認。山口部長(当時)とがっちり握手



27年のイタリア・ミラノ万博で旅館と日本文化をPR。ブースには安倍晋三首相夫人の昭恵さんも訪れた



今年開かれたタイ・バンコクの「ジャパニエキスポ・タイランド2016」でも旅館をPR。来場者に浴衣の試着や日本酒の試飲を楽しませた

全国大会 記念対談



対談を終え握手する桑田(右)、西村西氏

若い力で業界活性化、課題解決を

(3面から続く)

人材だ。

西村 確かに、私が経営者である時代はどうか(と)うと、これから団塊の世代が75歳、80歳となって消費が減り、人口も減っていくという非常に厳しい時代だ。その厳しい時代を迎える前から準備をしておかなければならない。日本がオリンピックという大きな目標に向かうこの4、5年が非常に大事な時期だ。

桑田 今期、私がたまたま政策を担当する中で、感じていたこれらの課題の解決につながるようなことを2年間やりたい、と思うようになった。これが立候補の動機だ。今年の4月、ヨーロッパのホテル協会に呼ばれて桑田部長とでもスロバキアに行ってきたのだが、その時に部長に意を伝えた。

西村 当面の問題はやはり、民泊だ。これからの日本の社会は高齢化と少子化が一層進み、さまざまな場面でひずみが生まれると思う。その一つの象徴がこの民泊問題だ。

桑田 人口が減って空き家が増えており、不動産業界も必死かと思う。問題を和らげるための処方せんの一つは、観光をしっかりと発展させることだ。海外の人にとって、自然や都心のテクノロジーもあるが、やはり日本らしい文化が魅力だ。それを磨くのがわれわれの責務だ。それを今、われわれがつかつかんがらば、今、われわれが果たす役割は大きいと思う。

西村 所信として、二つのアクションを挙げた。初めに出てくるのが

動力として受け入れられるように前向きに取り組むべきではないかと思う。具体的には外国人技能習得制度の活用。今、製造業で、3年の期間で行われており、これから5年に伸びるというふうな言われている。この制度をサービス業でもできないか。さらには少し高度な、例えば海外からお客様を呼び込むといった、高度人材の受け入れや、べきではないかと思う。

桑田 私とて、お客様が空いているのに人手が足りないか、お客様を断っている旅館がある。派遣社員に頼っている旅館は、なかなか派

遣にまでもならないか、時給が1400円、1500円と非常にコストがかかるとか、そういうことが現実になっている。

西村 今年の3月にベトナムの、日本に実習生を送り出す機関に視察に行つた。制度がかなりうまくいっている。われわれとタッグを組めばいいかと思う。

桑田 た、日本側が、来たいよと言えは喜んで来るか(と)うと、必ずしもそうではなく、台湾や中東に行つたりする。現地の予想では、あと3年くらいでベトナムも人手不足に

必要だが、裏側には技術、テクノロジーをできるだけ使った方がいいと思う。

桑田 今、さまざまな企業がわれわれ業界向けのサービスを提供している。が、一歩踏み込んで、われわれ自身「こういうものが欲しい」というものを立案して、開発するところまでできないか(と)うと、

西村 今、私の会社では、予約の情報を、業務システムを自動で作るところまで、システムを開発している。

桑田 青年部でも何かできるのでは、かと、考えているところだ。

西村 新体制のキャッチフレーズは、「何か考えて」と言われているのだが、まだ思いつかない(笑)。

桑田 今、思っているのは、われわれ業界はサステイナブル、持続可能なものではないか(と)うこと。そして、旅

旅連だけでなく、業界全体として考える必要がある(と)うこと。

西村 一歩かじりを入れた事業は、次世代のために、変わらないために変わる。そのような思いを込めたフレーズを何か考えたい。

桑田 桑田部長から、西村次期部長への期待のほどは、

桑田 桑田部長は、今後さらに大きな問題となる可能性が高い。365日営業がOKとなった。特に小規模旅館にとっては大変だ。旅館組合の組織も縮小するだろう。それくらい大きなことだ。

西村 この問題を自分の問題だと考えてもらいたい。いろいろなお願いごとがあると思う。ぜひ、ご協力をいただきたい。

桑田 観光がこれからの日本を救うぞ(と)うのは、誰がやるのか。その自信と誇り、気概と覚悟をもって、ともに力を合わせてがんばりましょう。

情報と思いの伝達しっかり 自信と誇り、気概と覚悟で

桑田 桑田部長は、今後さらに大きな問題となる可能性が高い。365日営業がOKとなった。特に小規模旅館にとっては大変だ。旅館組合の組織も縮小するだろう。それくらい大きなことだ。

西村 この問題を自分の問題だと考えてもらいたい。いろいろなお願いごとがあると思う。ぜひ、ご協力をいただきたい。

桑田 観光がこれからの日本を救うぞ(と)うのは、誰がやるのか。その自信と誇り、気概と覚悟をもって、ともに力を合わせてがんばりましょう。

お客様の満足度を向上させる『分煙』環境づくりを考えてみませんか？

JTでは、旅館・ホテル業や飲食業を営む皆様が分煙環境を整備する際、その方法についてアドバイス等をさせていただきます。『分煙コンサルティング活動』を無償で行っています。

分煙環境に関するご相談件数は、2004年の活動開始以降、10,000件以上にのぼります。ご相談いただく内容は様々で、具体的なコンサルティングのご相談も含め、多岐にわたります。

ホテル・旅館において分煙環境の整備を行った事例



ロビーに分煙機のみを設置していましたが、吸わない方への配慮から煙が漏れないように個室化。室内にはベンチも設置しました。



会議室利用者の快適性向上のため、同フロアに喫煙室を設置。外に煙が漏れないよう、十分な排気風量と適切な給気口を設置しました。

飲食店舗においては、店内の喫煙環境を事前にお知らせする店頭表示も有効です。事前に店内の喫煙環境をお知らせすることは、いまずくに行える分煙の取り組みです。お店の入口にステッカーを貼るだけです。費用をかけることなく手軽に取り組むことができます。

簡単にできる「店頭表示ステッカー」

分煙することでどんなメリットがあるの？

喫煙スペースからの煙やニオイの漏れを防止する方法はあるの？

分煙したいが、どんな設備を導入したらいいかわからない

たばこに関する法律や自治体条例等の動向を知りたい

喫煙環境を告知・表示する「店頭表示ステッカー」を、下記WEBサイトで簡単に作成することができます。表示に役立ててください。表示のステッカーが完成します。ぜひご利用ください。※一部地域では、店頭表示の機軸が条例等により定められています。その場合には定められた機軸に従ってください。[分煙.com]のWEBサイトはコチラ >>> <http://www.bun-en.com/>

<WEBサイトでのオリジナルステッカー作成例>



その他、JTではたばこに関する様々なご質問・ご相談をお受けしておりますので、お気軽にお問い合わせ下さい。

[分煙に関するご相談・お問い合わせはこちら] 日本たばこ産業株式会社 お客様相談センター 電話 03-5572-3336 WEB www.bun-en.com/consul/

ひとときを、思う。

One for All
All for One

「桑田体制」



今年3月、青年部主導で行われた民泊問題に関する「緊急フォーラム」。フランスのホテル業界のトップを招き、同国の民泊の現状を話してもらった



次期全国大会開催地に群馬県と石川県が立候補。投票で群馬県に決まる。決定後、桑田部長がラガーマンらしくノーサイドのホイッスルを鳴らし両県の健闘をたたえる



「桑田体制」始動の27年度定時総会で各委員会がメンバーと活動方針を紹介



「旅館甲子園」の担当者も事業をアピール。本番は来年2月22日



全国大会への参加を「ぐんまちゃん」とともに呼び掛ける群馬県青年部のメンバー



今年9月の臨時総会で西村次期部長を承認。場内の満場一致で決まる



JNTOの担当者から日本のインバウンド政策を聞いた今年9月の「県部長サミット」

全旅連青年部全国大会特集



一生涯のパートナーとして。
信頼にふさわしい、品質を誇りたい。

ともに生きるということ
LIFEPLANNER VALUE.
ライフプランナーバリュー

～全旅連青年部全国大会in群馬開催おめでとうございます～

生命保険に新しい風 PROFILE

ソニー生命

ソニー生命は、1979年に「きょうから生命保険が変わる。ライフプランナーが変わる。」の言葉を掲げ、誕生しました。「ひとのやらないことに挑戦し社会に貢献する」このソニースピリットをもって、かつてない新しいスタイルで、日本の生命保険業界に新風を吹き込んだのです。ライフプランナーのコンサルティングによるオーダーメイドの生命保険という革新的なシステムと質の高いサービスは、多くのお客さまのご支持をいただき、開業以来現在まで順調に成長を続けています。ソニー生命はこれからも、革新の心と顧客第一主義の理念をもって前進してまいります。

全旅連 ソニー生命ライフプランナー会会員

統括責任者
東京中央ライフプランナーセンター第3支社
トップ・オブ・ザ・エグゼクティブ ライフプランナー

中野 秀嗣

ソニー生命保険株式会社
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-7-2
東京サンケイビル31F
Tel 03-4334-5203 Fax 03-4334-5213
直通 03-4334-5346 携帯電話 090-3317-7338
E-mail:hidetsugu_nakano@sonylife.co.jp

